

## 活動状況報告（2月）

スポーツコース 5期生 太田 ゆき菜

2月の活動報告です。アメリカにきた当初に比べ、毎日が本当に驚くほどあっという間に過ぎ去っていきます。今月は①車いすバスケットボールのホームゲーム、②日常の様子についてレポートします。

①2/10, 11に車いすバスケットボールのホームゲームがありました。全米車いすバスケット協会の登録が完了したので、ベンチスタッフとしてベンチ入りして大会に参加することができました。目の前でコーチの指示の様子を聞けたり、トレーナーのサポートをしたりと経験できることの幅が広がりました。英語は感情の表現がストレートで、お互いたくさんぶつかりながらも日々を積み重ねてチームとして信頼関係を築きあげています。それをシーズン通して間近で経験できることは、日本のスポーツしか知らなかった私にとっては大きな経験となっています。また、今回のゲームはシニアゲームといって今シーズンで最後の選手たち(シニア選手)を讃えるゲームもありました。試合の合間にはセレモニーが開かれ、シニア選手とその家族が大勢の観客の前で一人一人紹介され、花をもらうセレモニーがありました。わたしも1シーズンのみでチームを去るのでサプライズで名前が呼ばれ、花をもらうことができました。日本もチーム力をとても大切にしますが、アメリカのカレッジスポーツもまた、チーム愛が強く、ファミリーとしてチームメイトやコーチ、スタッフ、サポーターをととても大切にします。今シーズン、イリノイファミリーの一員として一緒に戦うことができていることはすごく貴重な時間となり、競技力の面だけでなく、スポーツが持つ魅力やスポーツが人生に与える大きな影響を再認識することができています。スポーツは人生に刺激を与え、豊かにしてくれるものであると思うので、障がいがあってもスポーツ活動を経験できる機会に巡りあえるように活動していきたいという想いがより強くなりました。

大会運営の面では健常の学生チームが使用している学内の大きなバスケスタジアムは費用が高いため使用出来ず、普段練習で使用しているGymを大会用に設営しての利用でした。健常の大学アスリートチームと比べるとまだまだ予算の面で使えるお金は多くないそうですが、その中でもいかに大会を盛り上げられるかが工夫されていて、吹奏楽部とチアリーディング部の協力、DJを招待、ハーフタイムに学生のダンスパフォーマンスなどできる範囲で会場の熱気をいかに作り上げるかが考えられていて、とてもアットホームな熱い2日間となりました。また大学内の他の部活や学生の力も借りて大会運営できることはカレッジスポーツの強みであり、大学内にパラスポーツの拠点があるということもパラスポーツの可能性を広げている一つの要因であるように感じています。

②私の2月は6:00-9:30車いすバスケの練習、9:30-11:00トレーニングサポート、11:00-13:00授業、13:00-14:00ランチ、14:00-16:00授業、16:00-18:00リハ、トレーニングサポート、18:00-19:30車いすトラックの練習、19:30-夕食、宿題などなど…と毎日気づいたら終わっているような日々です。週末は大会なことが多く今月はホームゲームの他に、車いすバスケ女子チームの帯同でミルウォーキーに行きました。いつもはカレッジトーナメントなので各地域の大学の施設を訪れていますが、今回はローカルの大会だったので、ミルウォーキーの高校が会場でした。会場となっていた高校は屋内の巨大な運動施設を持っていて、今まで訪れた大学と違って屋外の運動施設は少なかったのが印象的でした。しかし地域の高校であってもここまで大きな運動施設

を保有していることはさすがスポーツ大国アメリカだなという感じで、屋内に陸上のトラック、バスケットコート3面、バレーボールなどができるようになっていました。また、どこの施設を訪れてもそうですが、視界に入ってくる装飾がカッコいいです。壁の装飾、色の統一、フラックなど、工夫次第で同じ施設でもよりカッコよく魅せるデザインにしていくことは可能だと思います。リハ室でもそうですが、デザインがもつ力は重要で、少しの手間や工夫によって施設の雰囲気やモチベーション、パフォーマンスにも影響を与えるように思います。これはSNSでのパラスポーツの魅せ方にも共通して言えることだと感じています。今回訪れた高校のあるミルウォーキーは北海道のように寒く、冬に屋内の運動施設が使えない期間が長いので、はじめから屋外の施設をあまり整備せず、使える土地と資金を年中練習が可能な屋内施設にフォーカスしているとのことでした。また普段は男子チームに帯同している時間が長いですが、今回は女子チームに帯同し、男子とはまた少し違った女子チームのあり方を垣間みることができました。来月はいよいよシーズンの集大成である全米選手権がおこなわれます。大会に向けてのチーム作りも最終局面を迎えており、私の留学での車いすバスケットチームとの日常も来月で一区切りとなります。私は選手ではありませんが、自分の立場でできること精一杯やって、良い準備をし、少しでもチームの力になれるように、残りの日々を全力で駆け抜けたと思います。そしてそこで経験したことを北海道のパラスポーツを取り巻くコミュニティに発信していけるようにしたいと思います。引き続きよろしくお願いいたします。

